

# 子どもの「パス」

## 未来の君に

青空が広がり、新緑が目まぶしい。博多から特急で1時間、周防灘に面する福岡県行橋市。郊外の高台に立つ障害児通園施設「行橋みらい学園」を訪ねると、園庭を白いチョウが舞っていた。

昨年5月、園に通い始めて約1カ月の春本しんのすけ君(4)は、くじらの部屋と呼ばれる奥のホールで元気に太鼓をたたき、はしゃいでいた。

発達障害の一つ、高機能自閉症。知的障害は伴わないが、コミュニケーションが苦手て対人関係をつまづつくれないのが、しんのすけ君の障害の特徴だ。「多動もみられます」。2008年3月、母和美さん(41)は、北九州市立総合療育センターで、わが子の診断結果を告げられた。

「おなかですいても泣かない」「目が合わない」など、思い当た

## 療育センターに通う

▷1



通園を始めて約1カ月、大好きな太鼓の前ではしゃぐ春本しんのすけ君=09年5月、福岡県行橋市

# 周りが変わることで大事

## わが子への接し方学ぶ場

る節はいくつかあった。

「その日が一番落ち込んで、1週間ぐらい、しんのすけを抱っこして毎日泣いていました」

早産のため1180gと小さく生まれたしんのすけ君。皮膚が薄く、血管が透けて見えた。退院後は大きな病気もせず、両親を安心させた。

けれど、子育ては苦勞の連続。を待ったり、おもちゃを交換した

すぐに走っていなくなるため、つないだ手は離せない。偏食で、口にするのはうどんなどめん類と丸パンだけ。しかられると激しく泣き、パニックを起こす。

療育センターに通うようになった。発達支援の目的は、友達とのかわり方を覚えること。遊びの順番

ある。「予想外の出来事への戸惑いは大きく、融通の利きにくさがあります」

「昨日は暴れて手が付けられなかったんです」

「その前に何があったか、よく思い出して」  
スタップとそんなやりとりを重ねるうち、少しずつコツのような

ものが分かってきた。「走っちゃダメ」ではなく「歩こうね」と声を掛ける。していることをすぐにやめさせるのではなく「10まで数えたらおしまい」と子どもに教え、親は待つことを覚える。

外でも少しは手を離してみよう。いなくなっても見つけられるよう、服に鈴を着けた。「子どもの行動を一方的に抑えてしまうのではなく、周りが変わることも大事。そう気付いたんです」  
療育センターから、みらい学園への引き継ぎ書にはこんな記述が

「1対1でしんのすけ君のペースであれば人のやりとりを楽しめますが、ペースが保てない集団では自分が思うように行動し、やりとりが成立しない面があります」

◆ ◆  
幼児期からの継続的支援を受けた発達障害者支援法が05年4月に施行されて5年。当事者の子どもたちは、どんな生活を送り、どう成長していくのだろうか。みらい学園で出会った、しんのすけ君の1年に寄り添った。

### ことば

発達障害 自閉症や、知的障害はないが対人関係が苦手な高機能自閉症、読み書きや計算が困難な学習障害(LD)、注意力や落ち着きのなさが特徴の注意欠陥多動性障害(ADHD)などの総称。生まれつきの脳の機能障害とされ、複数の特徴が併発することもある。幼児期からの発達支援の重要性が認識されるようになり、各地で受け皿づくりが進められている。